

「新しい時代に入る準備」

～キリストの登場の前に必要だったこと～

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」第二コリント5章17節

アメリカに新大統領が就任した。凶と出るか吉と出るか。世界中があの大国の一人の人物に注目している。4年という限られた時間だが、その期間にどれだけの結果を出すことができるのか？ 全くの民間からの就任であるがゆえに、先入観に縛れない状況で次々に考えられないアイデアを宣言しているが、果たして実行可能なのか？

これからのアメリカはどうなっていくのか？ また、それによって日本は、世界はどうなっていくのか？ 大いに興味深い。大きな変化が起こりうると考えます。その新しくなされる変化に対して、私たちは何らかの備えをなすことができるのでしょうか？ はっきり言って、素人には全く思いも及びません。

映画「スノーデン」がもうすぐ日本でも公開される。この時期に日本で見られることもとても意味がある。その監督である、オリバー・ストーン監督が日本に来られてインタビューを受けた内容が印象に残っている。今の日本は間違った方向に進んでいる。大切な役割を果たさなければならぬのに、本当にもったいない状況であることを語っておられた。

さてイエスがこの地上に生まれて、公にその働きを開始された時は30歳でした。そして、十字架にかかれるまでたったの約3年半と聖書は語っています。その短い時間に、世界を変えるような働きをなさいました。その開始直前に救い主イエスを華々しくこの世に紹介したのが、パプテスマのヨハネだった。パプテスマのヨハネは狂人のようないで立ちで、毛衣を着て、荒野にいて、イナゴと野蜜で、生活をしていました。いわゆる、完全にこの世とは切り離れた仙人のような生活をしていました。

ヨハネの使命は一つでした。それは「救い主の道を備える」こと。その方法は、「罪の悔い改め」でした。私たちの心の問題を取り扱い、そして、その目に見えない部分を明らかにして、隠れた罪をあぶりだすことだった。そして、すべての人が自分が罪人であることを認め、救い主の前に出て、救いを求めるように導く働きでした。

私たちは自分自身の嫌な部分をごまかしたり、隠したり、開き直ったりしながら生きています。しかし、きよい神の御前では誰一人言い訳をすることができません。私たちが死んで、その神の御前に出て最終的な裁きを受ける前に、この地上において罪の清算するチャンスを作ることがヨハネの仕事でした。

あなたの人生の罪をきちんと神様の御前に出て、清算しませんか？ すべてを暴露される前に……。すべての人生の重荷をおろして、清々しい毎日を送ってみませんか？